

第1回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会

日付：令和7年7月30日(水)

時間：午後1時30分 開会

場所：本庁4階 庁議室

【開 会】コミュニティ推進課 進行（13:30～）

志布志市ひとがともに輝くまちづくり条例（以下条例という。）第23条第2項の規定により、委員の過半数15名の出席を得て会議が成立

【課長挨拶】コミュニティ推進課長あいさつ

本日は御多用の中、令和7年度 第1回志布志市ひとがともに輝くまちづくり審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から男女共同参画をはじめとした本市のダイバーシティ社会の推進に御協力いただき、ありがとうございます。

さて、人口減少と人材不足という課題において、多様性の尊重と活用は単なる「社会的責任」の問題ではなく、持続可能な社会を構築するための基盤となり、多様性を積極的に活かすことで、個人も社会も共に成長し、新しい時代に対応する可能性が広がります。これからのまちづくりにおいて欠かせない視点です。

また、性別の固定概念から生じる役割分担や性別を理由にした無意識の思い込みが、一人ひとりが気づかないうちに社会に影響を与え、多様な人材の活躍を妨げる要因として存在することは否定できません。多様な人材が活躍できる社会の実現には、個人、組織、地域が一体となって、無意識の偏見や固定観念への気づきと対話を進める必要があります。

ところで、ジェンダー平等と女性が生きるための力を身に付けるための取り組みは、国際的にも重要なテーマではありますが、今年6月に世界経済フォーラムから発表されたジェンダーギャップ指数という男女間の格差を分析して数値化したもので、日本は、世界の調査対象国148か国（昨年は146か国）中、118位で順位としては、昨年と同様でした。経済、政治の分野で世界に比べて低水準であることが影響しているようです。

本日は、今年度第1回目の会議で、今年度の取組とプランの評価の手順についてご協議いただきます。本日の会議が実り多いものとなりますよう、それぞれ忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いします。

【協 議】

(1) 会長及び副会長の選任 進行：事務局

同条例第22条第1項により委員の互選を求めたが立候補及び提案はなく、事務局案提示により、会長に田川貴雄委員、副会長に川崎桃子委員を決定した。

- (2) ひとがともに輝くまちづくりプランに関する取組について 進行：田川会長
コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループから、ひとがともに輝くまちづくりプランに関する取組について説明し、意見を求めた。

(質疑応答)

Q 1 取組み内容の説明を聞いて、多岐にわたる事業展開をされているうえに相談業務も担っておられるということだが、担当される職員は不足していないのか。

A 1 現在の職員体制では厳しい状況にあると感じている。庁内には、女性、高齢者、児童等の相談窓口があるので、その相談窓口を集約して一本化できないか、相談体制の見直しを関係課とともに協議していくところである。また、専門的な相談員の設置を検討しているところである。

Q 2 志布志市内で外国人と地域住民がトラブルになったケースがあったのか。また、あったとすれば、どのように解決したのか。

A 2 コミュニティ推進課に直接、外国人とのトラブルに関する相談はないところである。しかし、聞いた話によると、文化の違いによるトラブルや騒音問題等のトラブルがあるようである。直接、相談があったわけではないので、解決したケースは無いところである。

Q 3 異文化交流に参加した際に、地域と外国人が活躍されている企業と地域に住む外国人が交流を図る機会ができたらいいなと感じた。ベトナムの方との話のなかで運動公園などを利用してサッカーをしていると言われていた。例えば、外国人の方々が他のチームと交流試合をしたいと思っても外国人の方々にとってはハードルが高いと思うので、どのようにアプローチすればいいのかと感じた。

A 3 外国人の方々から相談を受けた際に相談窓口がどこになるのか分からないケースがあると思われるので、コミュニティ推進課が窓口となって相談していただいて、関係課や関係機関につないでいきたいと考えている。

Q 4 相談件数の延べ件数、令和 6 年度の合計と内訳の件数が合わないのはなぜか。

A 4 大変申し訳ないが、作成誤りだと思うので、確認して訂正させていただく。

【協 議】(2) 「第 4 次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」の評価について

コミュニティ推進課ダイバーシティ推進グループが「第 4 次志布志市ひとがともに輝くまちづくりプラン」の評価について説明し、意見を求めた。

【委員発言】 評価のなかで大切なことは、お金をかけて事業をすることに対して、例えば、講習会を100回実施したとしても、それが単に実施しただけになるのではなく、講習会をすることで、どのような効果があったのかということの評価していかなければならない。その評価の指標を何にするのかということは難しいところである。進行管理表の①でダイバーシティの視点から事業に取り組んでいるのかという評価を行い、②でアウトプットやアウトカム、波及効果といったものがあるが、評価をするうえでは、アウトカムや波及効果をみていただければと思う。今までは、アウトプットで何をしたか、何人参加したのか、例えば、多くの方に参加してもらったことが大きな評価につながるが、事業に取り組んだことで何を得られたかというところを注目していただけたらと思う。

話は変わるが、今は、男女とか外国人とかではなく、個を大切にしていかなければならないと思っている。大学の学生に爪を綺麗にしている男性がいるのだが、関東の大学との交流で、関東の大学の男性が綺麗に化粧をしていたなど、様々な刺激を受けて鹿児島に帰ってきたとき、その男性の学生は、鹿児島に帰ってきてから少しファンデーションが濃くなった。本当は、そういうふうに表現したかったが、今まで鹿児島ではできなかったんだと感じた。東京に行って、初めて自分が表現できるんだと知ったんだとということを体験して、もっと自由に学生が自分のことを表現できるように、男女とか外国人とかではなく、人として、個として表現できるようになってきたらいいなと感じた。

(質疑応答)

委員からの質疑・意見なし

【協議終了】議長降壇

【その他】コミュニティ推進課 進行

【事務連絡】

- ①出前講座の活用依頼
- ②市民講座への参加依頼

【閉 会】コミュニティ推進課 進行（～15:00）